

「戦後復興の最功労者」とマ元帥、昭和天皇を讃える

公益財団法人
新教育者連盟理事長 代田健藏

9月27日は国民の祝日ではありませんが、わが国にとってはそれに匹敵する大切な日ではないかと、私は考えています。

戦後間もない昭和20年9月27日、昭和天皇(以下、陛下)は単身で占領軍総司令官のマッカーサー元帥(以下、マ元帥)をご訪問されました。

「陛下はそれ迄何度もマ元帥に会見の申し入れをされましたが、マ元帥は「天皇が命乞いに来るのだらう」くらいに考えていた。ところが陛下はマ元帥に会うや否や、まず戦争責任の問題を自ら持ち出され、「私は日本の戦争遂行に伴ういかなる事にも全責任をとりまします。また私は日本の名においてなされた軍事指揮官、軍人及び政治家の行為に対しても直接責任を負います。従って、私はどのような処分をされても、少しもいとわない。たとえ断頭台に据えられても構わない」と言われ。聞いたマ元帥はビックリ仰天した。命乞いなど全く発言されないばかりか、まず最初に自ら戦争の全責任は自分にあるとされ、陛下ご自身に都合のよいこと、利益になることは一切仰らない。

世界の戦争史上、君主が全責任をとり、いかような処分を受けてもよいと言った例をこれまでマ元帥は聞いたことがなく大変な感動を覚えた。マ元帥は陛下と対談しているうちに、陛下に対する尊敬、驚きが大きな感動となったのである。マ元帥のこの時の感動が、米国からのガリオア資金・エロア資金・ラ物資(復興資金、復興資材、食料提供)となり日本の復興が早まる事となった。20年後に訪米した重光外相にマ元帥は「重光君、およそ10年間で、日本を灰の中から今日このように立派に復興させた最高の殊勲者は誰と思うか」と問われて重光外相は「マ元帥」と言わせたのだと思ひ黙っている。「それは天皇以外の誰でもない。君にわからんのか。外国人の私にもわかってる。これを日本人が知らないのは大きな間違いだ」とマ元帥は言い、天皇を讃える言葉を語り続けた」

(昭和30年9月14日「読売新聞」、昭和58年7月25日・8月5日「国民新聞」合併号引用)

生命の教育 七つの心得

- 一、子供に宿る善性を信じ、これを引き出し伸ばし、育てます。
- 二、どの子の個性も尊重し、この世に生まれた使命を生かします。
- 三、よい習慣をしつづけて、正しいしつけといたします。
- 四、問題の子供は心の病氣、実は優柔児の仮の姿で、観方を一転します。
- 五、親が変われば子が変わる。何よりもまず、明るい家庭をつくりまします。
- 六、いつもニコニコ、やさしいコトバ、認めてほめて、たたえます。
- 七、花咲くことを疑わず、信じて気ながに育てます。



自分に誇りをもち 親に誇りをもち 祖国日本に誇りをもち 青少年を育成する

責任編集
公益財団法人 新教育者連盟

生命の教育

「生命の教育哲学」創始者 谷口雅春先生御揮毫

令和 5 年 9 月号 もくじ

巻頭のこぼれ 新教育者連盟理事長 代田健藏
「戦後復興の最功労者」とマ元帥、昭和天皇を讃える

特集 家庭の時間の生かし方

- 5 明るい家庭をきずくために
- 8 楽しい子育ては家庭生活から始まる
- 10 親子のコミュニケーションを大切に!
- 12 三つの習慣で楽しい我が家
- 13 時間を大切に過ごす
- 14 まずは母親が変わればという思いで……



谷口雅春
後藤久子
伊豆川由美香
安田玲香
加藤貴美
石黒浩美

16 《講演録》祖国の未来を拓く教育(前編)

皇學館大学教授 松浦光修

- 15 子育てワンポイント(75) 「明るい心」に!
- 20 子育てQ&A 中1の娘は登校を渋るようになった
ところが苦しいと言っている娘
子供のしつけ方で、夫との違いに悩む
息子の私立中学への進学に夫が反対する
息子が友達と万引きをしてしまった
- 25 子育ては母育て(130) 不慮の事故の防止策②
- 26 世界がおどろく日本の魅力(31) 老いを壽ぎ尊ぶ伝統
- 27 日本国憲法の問題点(95) 憲法の家族条項は見直しが必要だ
日本のしきたり(69) 「虫の声」
- 28 親子で読むものがたり(132) 欲張る心をすてましよう
- 30 広がる仲間の輪——喜びの声—— 広島支部「寺子屋くれ」
- 31 新教連活動あらかると
◇ 創立70周年記念新教連全国研修会の感想文紹介、第4回小・中学生の作文募集 ほか
◇ 9月の支部行事
- 34 事務局短信・編集後記・次号案内